

新春（ほっこり）交流会 2019（2019.1.20） 各グループでの意見まとめ

市町村	1 2020年に復興庁がなくなる。支援が少なくなる、あるいは全くなくなる。そのような状況の中で、皆が何をかंगाえているのか聞きたい。	2 今現在、避難元の地域(福島・宮城・岩手)や避難者の間でどんなことが起きているかの情報が広域避難者に十分届いていないと感じる。現地の情報をしっかり知りたい、話し合いたい。	3 避難元の地域に戻ることを考えているか、というこの本音を聞きたい。一步踏み込んだ質問だが、こういった機会に参加者の心の内を聞きたい。	その他の発言
浪江町①	<ul style="list-style-type: none"> ・(全体として) 困窮世帯が増えるのではないか ・2020年に復興庁がなくなるということ自体が問題なのでは ・復興庁がなくなるということは、様々なことに影響してくると思う ・支援制度云々ではなく、復興庁という存在は必要 ・今後の行政サービスに関しては不安がある(例:福祉サービス) ・原発は10年じゃおさまらない <p><支援は必要か></p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な人はまだいるので、支援制度がないと困る ・移民政策と同じ。まだ支援は必要 ・戻ったとしても支援がなければ生活が成り立たない <p><どんな支援が必要か></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転代行 ・間に入ってつないでいく人が必要 ・意見を集約してくれる機関、意見をまとめる窓口が必要 ・頼りになる支援員を⇒個別ケースに入り込み過ぎ ・支援員は場を作ることで精一杯⇒意見をまとめるのは難しいのでは ・支援員に意見を集約しても、それらの意見を制度に反映させる仕組みが必要 ・支援員も動きにくくなっているのでは。当初からその存在の意味合いが変わっているはず ・支援員の人数や出身を考えても期待しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・戻った人にどんな支援をしているのはよくわからない ・福島に関しては、健康調査の結果が信頼できない。納得できる調査結果がない。そもそもなんで避難解除になったのか疑問しかない ・現地へ連れて行って欲しい(例:墓参りに行きたい) ・説明する場、説明してくれる人、これらがいないから誤解が生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちが戻れない状況はどうなんだろうか ・若い人が戻れない。働き口がない ・福島県へは小さい子どもがいる家庭は戻りにくいのでは ・復興庁がなくなって支援がなくなれば人は戻らないのでは ・戻ること何かメリットがあるのか、今のままではデメリットしか感じない ・アンケート等では戻ることを前提にしていることが多い ・アンケートは書きようがない。帰るという選択肢しかない ・今戻っている人が亡くなったら、人がいなくなってしまうのでは ・避難解除になったので都営住宅に住めなくなってしまうが… <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の責任というものを感じてほしい ・原発の問題を東電の問題にするのではなく、国の問題として考えることが必要 	<p><賠償について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償のことについては触れてほしくない ・賠償のことなどデリケートなことを聞かれたくないから関わらない(交流しない)という人は多い ・一方で、賠償を受けているならば、それを使って自立していくことは必要というのも正論 ・悪気はなくても賠償をうがった見方で見ると ・人は他人のお金に興味があるから <p><被災者(避難者)への理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難先の地域の人への思いと、行政や制度に対する思いは別。地域の人には感謝している ・避難者(被災者)だと、その人を見てわかるわけじゃないから理解されにくい ・だからこそ、被災者や避難者の心情を知ってもらえる機会が大切 ・もしくは、正確に理解して代弁してくれる存在は大事 <p><地域とのかかわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難先に馴染む努力は必要。お互いに歩み寄りが大事 ・避難先の地域の人に何かしてもらいたいと思っいることはない。むしろ地域の人に協力していきたい ・被災者だからというわけではなく、いち住民として接してもらえればいい ・被災者・避難者の現状、被災地の現状を知ってもらえる機会は必要
浪江町②	<ul style="list-style-type: none"> ・役所の対応者が東京からの応援者で、話が伝わらない。役所の体制は整うのか? ・多自治体からの応援者が多く細かな対応ができていない。地元の役所は国へ要望するといっているがわからない。 ・若者が議員に立候補して欲しい。町の施策に若者の声を反映できる体制を望みたい。 ・役場は不親切。 ・帰宅前提の施策ばかり、帰宅できない人の施策が少ない。 ・2020年1月頃に一番心が痛ましくなりそう。3月期限を前にして。 ・復興庁は被災者に顔も見せない。期限が来たらお終いは。 ・総理大臣は口ばかり2020年以降の政策を明確にして欲しい。 ・野党で避難者の意見を聞く機会があったのか?あるのか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の修理は立ち会わないと実施してくれない。(イノシシの被害が大きい) ・東京の都営住宅はあまりに狭く、古い。建て替え時期の住宅を当てている。東京に電力を供給してきたのにひどい。 ・千葉は住宅環境がいい。3・11の対応も良かった。現在、習志野市に中古マンションを購入した。 ・昨年借り上げ住宅の補助が東電から県に移ったが、申請回数が年に1回から3か月ごとに増え、書類も煩雑で簡便に改善して欲しい。 ・補助金は的確に利用されているのか? ・県・町から広報誌は届いているが、情報のキャッチボールができない。 ・タブレットが無料配布されているが、2020年3月から有料となると聞いている。一定程度メール等のやり取りができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京で最期を迎えるか? 浪江町で迎えるか? 悩んでいる。 ・医療施設や交通の復旧ができていない。インフラが整えば帰りたい。現状では帰れない。 ・同居の姉の難聴がひどくなっている姉の面倒をみてから考える。 ・浪江町では医療施設は診療所が1か所(内科)のみで、他は別地区の病院へ通院しなくてはならない。移動手段も未整備でバス等を利用すると1日ばかりになる。 ・買い物が不便。2か所のコンビニの内1か所は17時頃に閉店している。 ・一時帰宅の際、宿泊所(いこいの村)から自宅までの交通手段がない。駅から自宅までも交通手段がない。食べる場所もない。 ・駅前に貸自転車の設置をして欲しい。 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・復興住宅は足もなく、市街地から遠い。便利な東京にいと帰る気がしない。 ・つなぐ会は期間なしで自律した会。長くつながっていくための会。 ・一時帰宅で自家用車を利用しているので、全面解除まで高速道路の無料を続けてほしい。 	
双葉町①	<ul style="list-style-type: none"> ・復興庁がなくなってもらっては困る。復興庁がなくなるということは、予算もなくなり、支援も減ることが予想される。。 ・政府や東電は「支援」という表現を使っているが、国・東電側の責任であるのだから「支援」はおかしい。 ・東電の賠償は、元々の住まいに戻れる環境を整えることが目的となるべき。 ・自主避難者も放射能がこわいため福島を離れたのだから、十分な保障がなされるべき。 ・これまで復興庁が一本化してやってくれているが、2021年3月以降は保障が何もなくなる。当事者である我々から声を上げていかないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・双葉町では行政からタブレットが渡され、情報は収集することができる。「広報ふたば」を災害版として毎月1日に発行している。 ・双葉町と大熊町は放射能による土壌汚染がひどいと言われている。周囲の地域では避難指示区域が一部解除となったところもあるが、こうした実情を公表せずに行っている。東電の作業員の話聞く機会があったが、ますますひどくなっているという情報もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りたくないという人は0%。帰りたいけど、原発の影響のために帰れないという人が大半の現状。帰ったとしても、医療もスーパーもなく、生活できない。 ・大人の甲状腺がんが増えている。今は身体に異常がなくとも、5年後10年後どんな病気がでるかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この交流会で取りあげていただいたテーマの話は、話題提供してくれる人がいないと話さないため、よい機会となっている。
双葉町②	<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで福島県では、第一次産業や自営業を生業としてきた。避難先では、仕事がないので非常に生活が苦しい。 ・避難先には地元の人がいなくて寂しい。地域のイベントには出ているが、なかなか自分たちの状況を理解してもらえず、壁がある気がする。 ・これから先の生活が見えない。当事者たちが置き去りにされているので、もう少し当事者たちのことを考えてほしい。 ・原子力関係の仕事があるため一生仕事の心配はないと言われた。 ・3.11前は、有機米を農協を通さず（JA）販売していたため農業の保障が得られなかった。 <p><家計></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路の無償化措置が終了する（平成32年3月31日まで）ためこれから故郷の様子を見に行くのも家計の負担が増えてしまう。特に冠婚葬祭で双葉町に帰郷するときなど、義理を欠かすことになることが非常に残念である。 ・医療費が有料なることも家計の負担を増やすことになる。 <p><健康></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろと今後のことを考えたりするとものすごく落ち込むことが多い。 <p><放射線></p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線量について、専門家は、レントゲン写真1枚分の線量だというのが、住民は帰還した場合、一生その場所にいる、年中被ばくし続けることになるがそれでも安全といえるのか、また体内被ばくについても、どの程度なら危険なのかよくわからない。 ・放射線は目にも見えず、においもしないので心配である。地元の魚なども食べられなくなってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からタブレットが渡され、情報は収集することができる。また当事者が発言したいことは自由広場というネット上で発言できるが、いろいろと規約があるため制限がある。また、本音のところは書き込めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元にとにかく帰りたい。 ・加須市社協は、個別訪問をしてくれている。うれしいという意見もあるが、福島もわからない人が訪問しても理解はしてくれないという意見もあった。 	<p><午後の交流会での発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅が壊されるのはさみしい ・家に戻りたい ・地元が避難先かどちらにも中途半端で、仕事はどうなるのか不安である。 ・安心して自分が顔を出せる居場所がほしい ・避難先のコミュニティーとのつながりがほしく、また当事者の立場を理解してくれる人がほしい。 ・避難先のイベントに参加して避難先の人たちと共通の体験を通して避難先のコミュニティーとつながっていく。 ・避難先には慣れても、こうした同窓会のような形で交流会が残るといい。 ・日々の生活でひきこもりがちにならないようにしていく。 ・比較的女性が外に出ていくことが多いが、男性は少ない。 ・都会で人々の声かけがないのが寂しい ・もともと地元で大きな家で3世代一緒に暮らしてそこで一生を終わる人たちがバラバラになってしまった。福島で自殺率が高いのは、そうした人たちが地元に戻っても誰もいないため、寂しさから自殺して下待ったりする人が多い。 ・交流会については自分の町以外の人と話せることはとてもよいのでこれからもこうした会を続けてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・東電からのお見舞いもなく、お見舞いを出すくらいの誠意がほしかった（発言者は、お金がかならずしもほしいわけではないとのことでした） <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興庁の機能は、総務省に移管される（どの程度かは不明）予定だが、震災の風化が心配。 ・双葉町の住民は「戻らない」のではなく戻りたくても「戻れない」のである。3.11の前に戻るなら今すぐにでも双葉に戻りたい。 ・福島県選出の議員は、復興庁が閉庁するのは10年と言われているが、それは津波がきてから10年であり、帰還できて、放射線問題が解決してから10年で閉庁ならば話はわかるということを発言している。 			
富岡町	<ul style="list-style-type: none"> ・復興していないのに復興庁がなくなるのはなぜ？ ・そもそも復興庁って何をしてしてくれてるのか？ ・復興庁の役人が、現状の実態を捉えているのか？ ・町の合併・広域化と推進する町同士の話し合いが必要。双葉郡の考えがバラバラである。町からの情報が避難者に行き届かない ・今でも進んでいないのに打ち切る事は寂しいと考えます。 ・震災後のどさくさで避難者が判断できない段階で町から言われたままでハンコを押して来た。 ・避難者の声を聞いていると思えない。 ・復興庁の廃止はまだまだありえないと思う（帰還困難区域の解除、生活の完全保障はできてないと思う）。 ・東京などに来ている人へ、県と復興庁と一緒に支援して欲しい。 ・帰還者が増えないのに何故。 ・引越した人が近所にタオルを配ったところ翌日返却されたという話もある。 <p><保障、制度に関する事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前には進めない気持ちは困る。 ・原発が終結するまでは保障をしてほしい。 ・支援制度の立法化を進める。 ・復興大臣にも要望したが復興庁の継続を強く働きかけていく。 ・移り住んだ所での新しい交流はなかなか生まれない。 ・H32で自宅の支援がなくなる。 ・現状の支援を打切る。健保、高速、免税、水道等々。 <p><継続してほしい制度（具体的なもの）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速と医療は続けてほしい。 ・現在東京より週3日双葉郡まで通勤している。全てが解除なるまで高速の無料化を望む。 ・まだまだ身体の病気に苦しんでおります。医療費を（無料）願うのみです。 	<p><町への要望（情報・タブレット）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の広報（町の状況）も打切るのか？ ・タブレットがなくなったのがだめ（近隣では富岡町だけ）。 ・町とのつながり、タブレットなど支給して！インターネットなどアプリ出来ない人もいる。 ・富岡町がタブレットを取上げた。町からの情報が届かず見れなくなった。3年前になくなった。一方的な打ち切りとの話であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・息子の仕事の関係で戻る。孫を未来学園に入れると言っている。 ・子どもが大学にあがったら富岡に戻ろうと思っている。 ・となり近所が戻るなら戻るが、もう住めないと思う。 ・子ども、孫、家族の学校、職場を考えたらもう戻れない。 ・賃貸での生活は落ち着かない。県外に住居を構えらるともう地元には戻れない。 	<p><土地に関する事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定資産税がどんなかたちで徴収になるのか？いくらになるのか？ ・更地にした土地は固定資産税が高くなる。 ・住まない富岡の土地どうするか？（税金がかかる。お父さんは残したい思い） ・いらなくなった土地は買い取ってほしい。 ・住まない土地はいらぬ。誰かにあげたい。 <p><交流や集まりなどの必要性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出てこられる人はまだいい。出てこられない人が心配。 ・ふるさとの言葉が聞こえてくると安心する。 ・避難者同士が友だちになれて、新しいつながりが生まれた。 ・同じ町同士の交流会は続けたい。一泊で出かけた！他の地域の避難者と交流したい。 ・県外の交流会に参加するようになり、ストレスが無くなり、笑顔が戻ったこと。イベントの継続をお願いします。
南相馬 いわき等	<ul style="list-style-type: none"> ・復興庁がなくなることがとにかく不安。 ・政策には、不満が一杯ある。 ・避難の状況が家族の関係性に大きな影響を与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる手立てがわからない。 ・除染の作業員も地域の住民に数えられている。 ・科学的根拠が信じられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りたいが再建（自分の店）ができない。 ・帰ることにしたが、自分ひとりになるので寂しい。（民生委員には、戻らない方が良くと言われた）孫 	

	<p>→離婚率上昇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興庁がなくなると甲状腺検査の結果がわからない。 ・住宅供与期間もなくなり支援自体がない。 ・心のケアが必要なことを分かってほしい。 ・現在、自主避難と同じ条件なので不安。 ・復興大臣などは、関係のある人にやってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解除された時点で、みんな帰っていると思われている。 ・ダムの水底は汚染されていても、上澄みは問題ないなどの調べが出ている。 ・除染は不完全だと思う、家畜がいるところは、除染していない。雨が降って流れてくるが、伝えられない。 ・事故に寄る放射線に関しては、目にみえない、食べてもわからない、影響もいつでるのか分からないので、大変不安。 	<p>も遊びに来られない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の家が住める状態なので、帰りたいとは思いますが…。 ・世間の人は、みんな忘れていて、避難解除されたところには、もう戻っていると思っている。 ・もう住めない。 ・お墓があるので、帰りたい。 ・役場の職員は、単身赴任が多い。 ・買い物、通院など戻っても地元施設がない。 ・一旦バラバラに暮らすと一緒に住むのは難しい。 ・地震だけだったらすぐに戻っていた。(宮城や福島とは違う。) ・子供たちに迷惑を掛けずに、良いところだったから特老に入ろうと思った…。 	
宮城 茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・復興庁が無くなる可能性については、特にコメントがなかった。 ・震災当日からどのように避難し、どのように今住んでいる場所に落ち着いたかを話す方が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月情報を送ってもらっているが、帰らないのに送ってもらっていることに対して申し訳なさを感じる。でも、少しでも地元の情報を知りたい。 ・知り合いが地元に残っているので、やはりどんな状況か気になる。 ・こうした交流会で情報交換できるのは嬉しい。 ・避難者の立場だと、東京/宮城のどちらの情報も中途半端な気がする。 	<p>ほとんどの人が帰らないと決めており、都営住宅などに落ち着いている。そのため、現在の生活の中での悩みを話す方が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットを連れて避難しているため、人の目が気になる。 ・近所の人になじめない。近所で挨拶もしないので、寂しい。 ・一度宮城に戻ったが、やはり車の運転や生活環境が不便で1年半前に東京に引っ越してきた。 ・知り合いもいないため、このような交流会があるのはありがたい。 ・団地の自治会でもめていることがある。他の団地でも同じことがあるのか、誰に相談していいかわからない。 ・早々に住宅支援が終了し、アパートに住んでいるが誰とも交流出来ない状況。28回申し込んでいるが都営住宅も当たらず、いまだに落ち着かず不安。 ・車の運転も難しくなってくるし、経済的にも戻って生活するのは難しい。 ・福島強制避難の方から、なぜ家賃無料の時にお金を貯めておかなかったのか、と言われたことがある。立場が違う事を分かっていない。 ・ふるさとは思うもの。生活は、自分で切り開いていくしかない。 ・避難先で、避難者として出かけたり、集まる事も減ってきた。どんどん外出の機会もなくなるので、こうした交流会やイベントのお誘いがあるといい。 	